



ストックパイル建設へ！

PKSの今後の需要



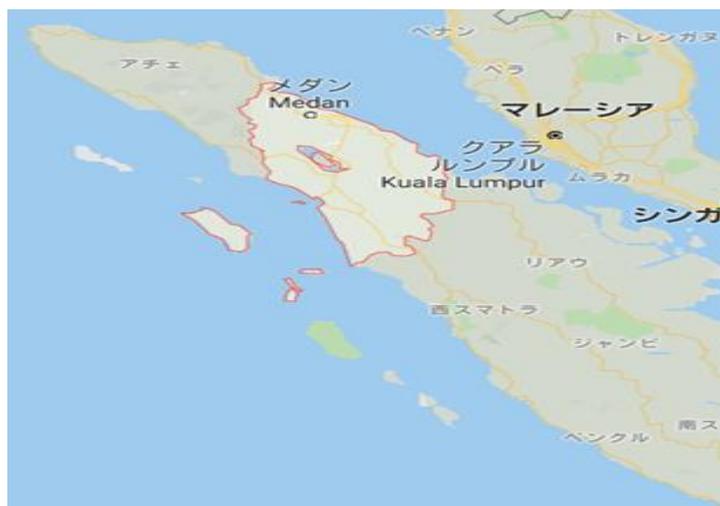
・現在日本では多くのバイオマス発電所が計画・稼働が行われている。発電所の主たる燃料として、パーム油工場の残渣として出てくるPKS (Palm Kernel Shell) が多く使われている。PKSは東南アジアを中心にパーム油を生産している国から輸出されている。

日本の主な輸入国としては、マレーシアとインドネシアがほとんどを占めている。

今後日本のバイオマス発電所から換算すると年間200万トン～300万トンのPKSの需要が見込める。

上記の数値はFIT認定からの算出値であり、いわゆるNon-FITまで考えるとその需要は無尽蔵にあると考えられる。

自社ストックパイル建設へ



先述した、需要から弊社グループPT. AWINAとAAIが共同出資を行いインドネシア北スマトラにストックパイルの建設を行う。

このストックパイルにはインドネシア国営企業PT Perkebunan Nusantara (PTPN) が全面的に協力を行い運営を行う。

このストックパイルは日本向けを大前提としているため、クリーニングから保管方法まで弊社グループで監修管理を行い、日本基準に合わせたPKSの輸出を行う。

また、バックアップ体制として日本商社などにPKSを卸している、インドネシア大手サプライヤーとも弊社グループは協力体制をとっており、安定的かつ安価なPKSを供給する体制を構築している。進捗状況は随時続報としてお知らせします。